The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国人日本語学習者の韻律理解力について
Author(s)	張, 若星
Citation	大阪大学言語文化学. 2015, 24, p. 87-100
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77747
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

中国人日本語学習者の韻律理解力について*

張　若星**

キーワード：韻律的特徴、イントネーション、アクセント

这篇论文是围绕中国日语学习者的日语韵律理解力来实施的语音实验调查。实验项目分为9个部分：单纯名词的语音、复合名词的语音、动词＋助动词的语音、语法歧义句的音调、含语义焦点的句子的音调、句尾音调、终助词的音调、特殊节拍的语音、破裂音的清浊。

实验的结果如下：从单纯名词的发音来看、这些单纯名词对于中国日语学习者来说都是生活中的常用语、是非常熟悉的、所以学习起来并不困难。而对于复合名词的发音规则他们并不清楚。从动词＋助动词来看、对于学习者来说、虽然是生活中使用频率相当高的词汇、但是发音方面并没有正确掌握、错误率很高。另外、与学习日语的年数以及在日本生活的年数无关、语法歧义句的音调这方面的理解对于学习者来说很困难、学习者之间的个人差异也很大。不过、语法歧义句的音调这方面来说、也许是因为日语和汉语的语法歧义句的在发音时、歧义消除方法是大体相同的、所以学习者在理解方面没有问题。但是、句尾音调和终助词的音调这两个方面、学习者之间的个人差异很大。其中原因可能是学习者都在日本居住、生活中常常听到日语、渐渐的对于语调的理解也不是很难了。而特殊节拍的发音这方面、学习者普遍在词尾长元音和促音这两方面存在理解问题。最后、关于爆破音的清浊、词首辅音的正确率非常高、然而词中辅音的正确率却不高。

简言之、对于中国日语学习者来说、日语的韵律的理解的困难点如下：复合词的语音、动词＋助动词的语音、语法歧义句的音调、促音、词中的爆破音这几个方面。今后、对于应该如何学习语法歧义句的音调这方面需要更深入的研究。并且、促音的方面应该着力研究如何更加有效率的教学和学习。而有关包含焦点的句子、应当着力研究学习者的发音和知觉这两方面进行更深入的研究。

1 研究目的

韻律的特徴とは、アクセント、イントネーション、リズムの総称である。日本語の音声においては、韻律的特徴を正確に聞き取って、言語機能を理解することでコミュニケーションが円滑になると思われる。佐藤（1994）は、日本人が外国人の話す日本語の音声

---

* 关于中国日语学习者的日语韵律理解力（张　若星 Zhang Ruoxing）

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

を評価する際、単音と韻律のどちらがその評価に大きな影響力を持つかを明らかにするために、日本人を対象に聴取実験を行ったところ、中国語・韓国語を母語とする日本語学習者については、韻律の影響力が単音の影響力を上回るという結果を得ている。そのため、日本語の韻律習得は日本語学習者にとって重要な部分であると言える。

しかし、日本語の発音指導の中で、アクセントは重要視されている一方、それ以外の韻律的特徴は指導が行われにくいようである。筆者自身の経験や他の中国人日本語学習者の体験を聞く限り、中国の日本語授業で日本語の発音、特に韻律的特徴について時間をかけて学ぶ機会は少なく、関心も高くない。教育する側も韻律的特徴については重要視していない。また、郡（2003）によれば、日本語ではアクセント以外はようやく近年になって研究が活発化しつつあるものであり、教育法も十分開発されていない状況である。

中国人日本語学習者の日本語における韻律の問題点は日本語と中国語の干渉による部分が大きいと思われるが、中国語についても四声以外の研究と教育法の開発は十分ではない。他言語においても L2 の韻律習得は軽視されているようである。たとえば、斉藤・上田（2011）によれば、日本人英語学習者も韻律を苦手としており、教授する側も正しい知識を欠いているようである。

筆者の研究の最終的な目標は、中国人学習者による日本語の韻律的特徴の総合的な運用能力を向上させるための方法について考察することである。韻律上の改善が必要になる可能性がある項目は次節で述べるように多数あり、それぞれについてはすでに個別の研究が行われているが、それらの項目の中に、中国人学習者が特に苦手にしているものとそうでないものがあるように思われるが、個別の研究からはそれが何かは不明である。そこで、本研究では同じ学習者を対象にして、韻律上の改善が必要となる可能性のある項目について広く理解力を調査し、一つ一つの項目が音声理解能力の中でどのような重要性を持つのか、そして、研究と教育の対象として何が優先されるべきかについて手がかりを得るための調査を行った。

本研究では、韻律上の問題を広くカバーする 9 項目について 11 名の学習者に対して調査をする。9 項目のそれぞれについて設問数は多い方がよいが、多すぎると被験者の負担が多大にならないよう配慮し、一つ一つの項目についての設問は 4 問程度と少なくせざるを得なかった。しかし、大まかな傾向は把握でき、次の段階の研究をするための重要な基礎資料になるのではないかと考えられる。

2 先行研究

2.1 中国での日本語音声教育の現状に関して

谷口（1991）の中国国内の日本語教師 158 名に対するアンケート調査では、教育現場

では音声教育のための時間設定が少なく、計画的指導が不十分で、指導は教師個人の技量や裁量に任せられる場合が多いことが浮き彫りになった。教育内容では、単音や特殊音等の分節的特徴を重視し、アクセントやイントネーションなどの超分節的特徴を軽視する傾向があり、韻律要素は自然に身につくもので、別段指導の必要はないと捉えられている。

2.2 中国人日本語学習者の子音の清濁に関して

韻律の問題ではないが、中国人日本語学習者の発音の問題点として多く指摘されるのは、有声・無声破裂音である（たとえば朱 1994)。これは中国語には有声・無声ではなく、有気・無気の区別が存在するためである。

2.3 中国人日本語学習者の特殊拍の問題点に関して

いずれも中国語のリズムがモーラ単位ではないことで生じる違いである。

促音に関しては、促音を含む語を無促音のように発音する、促音を含む音声が、促音がないように知覚されることがよく知られている（たとえば松﨑 1995)。

撥音に関しては、中東（2003）では、中国人日本語学習者に対して撥音の読み上げ調査を行った結果から、中国人日本語学習者における撥音の音声的バリエーションには音環境により一定の傾向が認められること、そして多くの場合、後続する音の別により実現音声が決まるが、ゆれも見られることを指摘している。

長音と短音に関して、栗原（2005）は、中国語北方方言を母語とする日本語学習者の長音と短音の産出傾向を調査した結果、日本語能力が低い場合は、長音が短音化しやすい一方、日本語能力が高い場合は、短音が長音化しやすいという傾向を見出した。また、長音と短音の混同に加え、長音・短音のいずれの発音においても、日本語レベルに関係なく、語中に促音が混入する傾向も観察された。促音と長音に関しては、賈（2006）の研究もある。

2.4 中国語母語話者の日本語発話のアクセント・イントネーションについて

中国語の発音には四声があるので、単語アクセントは理解しやすいが、イントネーションの日中両言語の差については3章で先行研究を紹介する。アクセントとイントネーションを含めた全体像として、平野（2014）は、中国語話者の日本語発話の韻律的特徴について以下のように述べている。中国語話者のピッチパターンでは、文節ごとの急峻なピッチの上下変動が見られ、音響的な意味のまとまりの形成を阻害すること、日本語にはないアクセント型が出現しやすい。郭（2011）は、学習者の音声には、日本語母語

話者と異なって、音節量による語頭の上昇の違いや、後続文節の語頭のアクセントの弱化が見られなかったと報告している。

アクセントについて、楼（2009）は、単音節語が多い中国語話者は、長い語を複数の単位に分けるという第1言語の干渉による影響があると指摘し、複合語に関して、中国人日本語学習者にとって習得しにくいものとして、「行かない」「くれない」（0→2、0→3）をあげた。

イントネーションについて、郡（2003）は文内のイントネーションと文末のイントネーションを分けている。文内のイントネーションとして重要なのは、アクセントが弱化するかどうかで、それによって統語的あいまい文の区別、フォーカスの位置の区別が可能になる。文末のイントネーションは終助詞がある場合とない場合で異なることを述べている。

中国語を母語とする学習者の文末などのイントネーションについての研究もいくつかある。陳（2002）の研究では台湾人日本語学習者を対象に、音響的分析を行った結果、文末上昇が狭く、その問題点は初級者・上級者、両方に見られること、台湾人学習者が発話する日本語疑問文の音響的特徴は、1拍目から2拍目にかけてのピッチ上昇幅が東京語話者に比べ、若干小さいこと、東京語話者と異なり、疑問文の1拍目を平叙文より低く発話しないことを指摘している。

また、谷部ら（2010）は、異なる韻律的特徴を有する発話末の聴取実験を行い、中国人日本語学習者は、日本語母語話者よりも発話末のピッチの知覚が鋭敏であると報告している。

あいまい文について、楊（2013）は、言い分ける韻律的手段として、中国語では音声の強度を増大させるのに対し、日本語では音声の高さを変えることを指摘している。

3 中国人学習者への聴取実験

2章で述べた各項目の相対的な重要度を知るために次のような実験を行った。

3.1 テスト項目と実験の方法

表2（付録）にテスト項目の内容と回答の選択肢を示す。アクセントの記号は、高くなる箇所に「を付け、低くなる箇所に」を付ける。イントネーションは郡（2003）にしたがって、疑問型上昇調を↗、強調型上昇調を↑、顕著な下降調を↓、上昇下降調を∩で示す。

<1> アクセント

選択肢を2つ設け、それぞれの音声を2回ずつ提示した。回答のしかたは「Ⓐを続け

て2回、Ⓑを続けて2回聞かせます。どちらの言い方が、それぞれの単語の正しい発音（アクセント）でしょうか。選んでください。」という内容を中国語で指示した。回答用紙には「(1)［日本語で書かれた具体的なテスト項目］:Ⓐ Ⓑ わからない（「わからない」は中国語で）」だけを書いておいて選ばせた。

<1-1> 単純名詞のアクセント

調査項目と回答の選択肢は表2に示した通りだが、なじみ度が高い語[1]（和語、漢語、外来語、地名など）について、アクセントの正解を知っているかどうかを目的とした。正解がⒶ、Ⓑのどちらかに偏らないようにアクセントの提示順序を語ごとに変えている。

<1-2> 複合名詞のアクセント

複合名詞でも、アクセントとして複合するものとしないものがあるが、学習者はその規則をわかるかどうかを判明したい。先行研究の中で、中国人日本語学習者に対し複合名詞アクセントの習得度を検証した黄（2014）は、アクセントが複合しないタイプのもの（SCAS）の習得度は、アクセントが複合するタイプのもの（CARS）より遥かに低いこと、特に「対比接頭辞」「並列構造」「氏名＋地位・役職名」の領域においてはCARSによる過剰般化が起こる傾向が強いとしている。また、「右枝分かれ構造」によるSCASの習得が困難であることを判明している。本実験において、アクセントとして複合する言い方としない言い方を提示した。

<1-3> 動詞＋助動詞のアクセント

動詞のアクセントには、「来る」のように終止形で下がり目があるものと、「行く」のように終止形で下がり目がないものの2種類があり、この2種類の違いは助動詞が付くときでも保たれるが、日常語がどの型か分かっているかを判明することが目的である。原因として「独立した語の『ない』のアクセントが1型で、『行かない』、『くれない』の場合は『ない』のアクセントをそのまま引き継いだことが原因だろうか」と楼（2009）が指摘している。

実験においての音声は、下がり目があるタイプの動詞として正しいアクセントのものと、下がり目がないタイプの動詞として正しいアクセントのものを提示した。

<2> イントネーション

選択肢を2つ設けており、それぞれの音声を3回ずつ提示した。指示は中国語で、「まず、説明をよく読んでください。説明に書かれている意味としてⒶⒷのどちらが正しい

[1] 天野・小林（2008）の『基本語データベース　語義別単語親密度』では、日本語の単語を7段階評定尺度（1: なじみがない―　7: なじみがある）で評定し、値は1.000から7.000の実数である。本研究はなじみのあると思われる語を選んで、それらはデータベースに参照し、親密度が6点以上の単語だったことを確かめた。

発音（イントネーション）でしょうか。選んでください。Ⓐと Ⓑを交互に 3 回聞かせます。」とした。正解がⒶⒷどちらかに偏らないようにイントネーションの提示順序を文ごとに変えている。

<2-1> 文内のイントネーション（1）：統語的あいまい文（4 問）

「(21) 春休みに読んだ本は全部返しました：この文は「本は春休みに読んだ」という意味で使うこともありますが、「本は春休みに返した」という意味のこともあります。春休みに返したことを言っているのはどちらですか。Ⓐ Ⓑ わからない」のような形で尋ねた。

<2-2> 文内のイントネーション（2）：フォーカス（4 問）

「(25) コーヒーでゼリーを作った：「ゼリー」を強調しているのはどちらですか。ⒶⒷわからない」のような形で尋ねた。

<2-3> 文末のイントネーション（1）：終助詞類がない裸の文末（4 問）

日常生活において頻繁に使用される「わかってる」「はやく」「なるほど」「だよ」「だね」「じゃない」をテスト項目にした。

「(29) わかってる：質問しているのはどちらですか。Ⓐワカッテ↑ル Ⓑワカッテ↗ル　わからない」というような形で尋ねた。（矢印は上昇調を意味する）

<2-4> 文末のイントネーション（2）：終助詞類（4 問）

「(33) 村山さんですか：『村山さんのことだった』と理解したのはどちらですか Ⓐムラヤマサンデスカ Ⓑムラヤマサンデス↗カー わからない」のような形で尋ねた。

<3> 特殊拍

選択肢を 2 つ設け、音声はそれぞれ 2 回中国語で、「同じ音を続けて 2 回聞かせます。聞こえてくる発音はどちらの意味でしょうか。」提示した。回答用紙には「(37) Ⓐかど（角）Ⓑカード わからない」のように書いておいて選ばせる。

<4> 子音の清濁

韻律的特徴の調査項目ではないが、理解度を比較するために実験に加えた。指示は特殊拍のものと同様である。

3.2 モデル音声の話者

日本語モデル音声は、日本語を母語とし、音声学的訓練を受け、大学で 7 年間日本語教育に携わってきた日本人（30 代、女性、静岡県出身）に各項目について 2 回ずつ発音していただいたものを録音し、聴取実験に使用した。

3.3 被験者と調査方法

聴取実験の被験者は、日本の大阪府に居住し、日本語を（全面的にあるいは補助的に）用いて大学で学習や研究を行っている中国人であり、その構成は表1の通りである。

学習者12名にそれぞれ都合の良い時間帯にパソコンにて音声を聞いてもらい、回答用紙で選択肢を選択してもらった。

表1　中国人学習者の構成[2]

学習者	年齢	性別	出身	正規の教育機関での日本語学習歴	日本滞在期間
C1	25	男	上海市	0	2年弱
C2	22	男	上海市	0	2年
C3	27	男	江蘇省	3か月	1年半
C4	29	男	内モンゴル自治区	1年	2年
C5	25	女	上海市	2年	2年
C6	25	女	四川省	3年	1年
C7	28	男	青海省	3か月	4年
C8	24	女	江西省	0	3年
C9	30	男	遼寧省	2年	5年
C10	25	女	黒竜江省	5年	4年
C11	28	男	黒竜江省	2年	8年
C12	25	男	甘粛省	1年	3年

4 聴取実験の結果と考察

聴取実験の結果を、設問とその回答の選択肢と共に表2（付録）に示す。「○」が正解したもの、「×」が不正解だったもの、「？」が「わからない」と回答されたものである。各設問について正答が非正答に比べ多いか、少ないと判定できるか統計的有意性を示すために、二項検定（両側）で得られる有意確率が $p<0.05$ の設問に対して、表の右から2番の欄に印を付けた。単なる＊印は正答が多いものであり、(*) は正答が少ないものの意味である。また、学習者が日本語に能動的に接した期間によって正答率が異なるかについて、日本滞在期間を2年を境に6人ずつ2つのグループに分け、9つの韻律項目の回答合計のそれぞれについてグループによる差があるかどうかをウィルコクソンの順位和検定を行った。結果はどの項目についても有意な差はなかった。

[2] 日本滞在期間を2年を境に2つのグループに分けている。

4.1 単純名詞のアクセント

生活用語でなじみ度が高いと考えた名詞を調査語として選んだが、正答率が高く、回答者全体で85%だった。学習者C3だけは正答率が低いが、この結果を見る限り滞在歴や学習歴による差はないようである。ただ、「(4) 毛布」だけはほぼ全員が不正解だった。間違えた学習者について原因を聞いたところ、「普段標準語アクセントとして聞かない」ということであった。これは、なじみの深い名詞であればアクセントは理解できているが、そうでない語はアクセントもわからないということで、当然の結果と言えるが、中国人学習者についてはアクセントの習得自体が困難だというわけではないことを示すものだと思われる。学習者C3の正答率の低さの原因については今後調査する予定である。

4.2 複合名詞のアクセント

「(13) 京都大学」「(15) 日本料理」を間違えた学習者は殆どいない。しかし、「(14) 試験開始」はほぼ全員が間違えており、「(16) 中国南部」も正答率が非常に低い。つまり、「日本語の複合語のアクセントの多くは二つのアクセントが複合し、一つの下がり目しかなくなる」ことはわかっているが、例外として複合しない規則について知らないようであり、黄 (2014) の調査結果と合致している。滞在歴や学習歴による影響はなさそうである。

4.3 動詞＋助動詞のアクセント

「(19) 行くそうです。」以外は正答率が低く、全体としての正答率は58%である。名詞アクセントの場合とは状況が大きく異なる。学習者別に見ると、正答率が特に低いのは日本滞在期間が2年未満の者に偏っている。滞在歴が関係しているようにも思えるが統計的に有意な差はない。なぜ「(19) 行くそうです。」の正答率が高いのかを含め、詳細の解明には今後の調査が必要である。実験後インタビューをしたところ、学習者たちは普段日本語を使用する際も、動詞のアクセントについてはわからないまま適当に話しているようである。

4.4 統語的あいまい文のイントネーション

正答率は全体で29%であり、非常に低い。どの設問も3名のみの正解である。 具体的に言うと、(21)、(22) を正解しなかった学習者の多くは正解の逆を正しいと思った。それに対して、(23)、(24) を正解しなかった学習者の多くは判断不能であった。

このように、一般に中国人日本語学習者にとってあいまい文は非常に理解しにくい項目だと言える。そして、この結果を見る限り滞在歴や学習歴による差はないようである。

学習者 C1 と C8 は正規の日本語教育を受けていないのにもかかわらず、4 問のうち 3 問を正しく答え、正解率が比較的高い。逆に、学習歴が 5 年もある C10 は正解率が 0% であり、学習歴が 1 年のある C4 も、正答率は 0% である。また日本に一番長く滞在している C11 もわずか 1 問しか正しく聞き取れない。つまり滞在歴や学習歴と関係なく個人差が大きい。

4.5 フォーカスとイントネーション

フォーカスを置く語が平板型アクセント、もしくは起伏型アクセントの場合に分けて、4 問を設けたが、正答率は全体で 92% であり、非常に高い。中国人日本語学習者にとって日本語のフォーカスの理解はさほど難しくない項目と言える。文のイントネーションの中では、4.4 で述べた統語的あいまい文の場合と対照的な結果となった。実験後のインタビューでは、学習者それぞれ、「正規の日本語教育を受けているときも、フォーカスに関する練習が無いにもかかわらず、聞き取る際、規則はなんとなくわかる。」ということだった。

その理由として考えられるのは、日本語のフォーカスは、際立って発音されることによって実現されることである。中国語のフォーカスが、顧（2002）の研究では、F0 レンジ、継続時間長とフォルマント周波数の顕著な変化が見られたこと、声調や前後ストレス位置などが F0 レンジと継続時間長の変化に影響を及ぼしていること、F0 レンジはフォーカス単語の知覚に最も重要であることが述べられているように、これは日本語のフォーカスと同様なので、学習者にとって理解しやすい項目なのではないだろうか。しかし、産出の面では、張（2012）などで、中国人学習者は日本語のフォーカスをうまく発音できないことが判明している。生成と知覚が一致しないことについては今後の研究が必要である。間違った学習者の日本語学習歴と滞在歴はそれぞれであり、それらとはあまり関係がないようだ。

4.6 裸の文末のイントネーション及び終助詞類のイントネーション

終助詞がない裸の文末のイントネーションの正答率は全体で 94% であり、非常に高い。そして、終助詞類のイントネーションの正答率は全体で 79% であり、比較的高い。また、この結果を見る限り滞在歴や学習歴による差はなく、設問による違いも小さい。文末のイントネーションは中国人学習者にとってはあまり問題がない項目だと言えそうである。

4.7 特殊拍

テスト項目を選定する際、単語内や文の中での位置の差異によって学習者の理解に差

がある可能性を考えて設問を設けた。母音の長短について、正答率は全体で89.6%だった。「(37) 角」(選択肢はカドかカードか) と「(38) チーズ」(選択肢はチズかチーズか) のように語中の長母音が問題になる場合は正答率が相当高いのに対し、語末の長母音が問題になる「(39) 佐藤さんですか」(選択肢はサトか、サトーか)、「(40) 斜めです」(選択肢はナナメかナナメーか) の方は正答率が比較的低い。

間違った学習者は、C4、C8、C9、C12であり、それぞれ比較的日本に滞在期間の長い学習者であるが、母音の長短を把握していないようである。

また、促音については、全体的な正答率は70.8%であり、その中、半分の学習者が間違ったのは「(42) そこにいてください」(選択肢はイテかイッテか) と「(43) ピタリです」選択肢はピタリかピッタリか)。

ここでも学習歴や滞在歴との関わりは少ないようである。原因として、日本においての日常生活では、「行ってください」は「居てください」より多く使われ、また、ピタリもピッタリも同じ意味の語[3]だが、ピッタリの方が日常的に聞く機会が多いので、学習者たちは聞き取る際、つい聞き覚えのある単語やフレーズを選択してしまったことが考えられる。

4.8 破裂音の清濁

破裂音の清濁の理解も中国人日本語学習者が苦手とする項目だと思われるが、ここでは破裂音の清濁の設問を8問とした。しかし、正答率は全体で94%であり、他の項目に比べると問題は小さいようである。

ここには語頭子音の清濁が問題になるものと語中子音の清濁が問題になるものがある。語頭子音の場合の正答率は100%で、語中子音の場合は88%であり、語中の場合は少し下がる。語中より語頭のほうが中国人学習者に知覚されやすいことは山本 (2000) も指摘しており、それに合致する結果である。

5 まとめ及び今後の課題

本研究では、中国人日本語学習者の日本語の韻律の理解力について、聞き取り実験を実施し、「単純名詞のアクセント」、「複合名詞のアクセント」、「動詞+助動詞のアクセント」、「統語的あいまい文のイントネーション」、「フォーカスを含む文のイントネーション」、「文末のイントネーション」、「終助詞類イントネーション」、「特殊拍のアクセント」、

[3] 天野・小林 (2008) の親密度では「ピタリ」が5.250で、「ピッタリ」は5.775であり、さほど差がないものの、学習者は全員「ピタリ」という単語を知らないという。つまり、日本人において親密度が高い単語だとしても、日本語学習において親密度が極めて低い場合もある。

「破裂音の清濁」という９つの部分に分け、分析してきた。

結果として、アクセントは、生活用語でなじみ度が高い名詞について理解度が高く、中国人学習者はアクセントの習得自体が困難ではないが、複合語アクセントに関しては、アクセントとして複合しないものがあるということは知らないことがわかった。また、動詞＋助動詞のアクセントに関しては、使用頻度の高い表現でも学習者は正しいアクセントをほとんど把握していない状態であることがわかった。

イントネーションについて、統語的あいまい文のイントネーションに関する理解力は非常に低く、日本語学習年数や日本在住期間などと関係が少なく、個人差が大きいようである。統語構造とイントネーションの関係についての理解力が低いことは、これが学習項目として重要なことを示す。これに対し、フォーカスを含む文に関しては、日本語のフォーカスは、母語である中国語のフォーカスの実現とほぼ同じような方法なので、学習者にとって理解しやすい項目と思われる。また、文末のイントネーション及び終助詞類イントネーションに関しては、項目によって、少し問題はあるとしても理解力はかなり高い。

特殊拍に関しては、語末の長母音が問題になり、促音の理解度も高くない。破裂音の清濁に関しては、語頭子音の場合の正答率は高かったが、語中子音については問題があることがわかった。

中国人日本語学習者は、アクセント自体は理解できるので、注意すべき点さえわかれば複合語アクセントと動詞変形＋助動詞のアクセントの習得は難しくないと思われる。それに対し、統語的あいまい文については、これをどのように習得していくかを、滞在歴・学習歴や個人のもともとの能力との関係を含め、今後重点的に研究していく予定である。促音についても効果的な習得の研究がさらに必要であり、フォーカスについて産出能力と知覚能力の違いについてもさらに研究が必要である。

参考文献　五十音順

天野成昭・小林哲生『基本語データベース　語義別単語親密度』2008、学習研究社

賈海平「話速の変化に対する日本語の促音・長音の時間構造の分析に基づく日本語学習者の習熟度評価：中国語母語話者を例として」『日本音響学会誌』62（6）、2006、pp.433-442

郭侃亮・酒井弘・五十嵐陽介「中国語を母語とする日本語学習者の音声における語頭の韻律的特徴 —日本語母語話者との比較を通して—」『電子情報通信学会技術研究報告』111（170）、2011、pp.13-18

栗原通世「中国語北方方言話者の日本語長音と短音の産出について」『言語科学論集』9、

2005、pp.107-118

顧政來・森大毅・谷英樹「中国語におけるフォーカスされた単語の韻律的および分節的特徴：分析、合成および知覚」『電子情報通信学会技術研究報告』102、2002、pp.1-6

黄琴薇「中国語母語話者における日本語の複合名詞アクセントの習得度—『分裂複合アクセント構造』を視野に入れて —」『電子情報通信学会技術研究報』113、2014、pp.19-24

郡史郎「イントネーション」『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』朝倉書店、2003、pp.109-131

斉藤弘子・上田功「英語学習者によるイントネーション核の誤配置」『音声研究』15、2011、pp.87-95

佐藤友則「単音と韻律が日本語音声の評価に与える影響力の比較」『日本語教育方法研究会誌』1 (2)、1994、pp.2-3

朱春躍「中国語の有気・無気子音と日本語の有声・無声子音の生理的・音響的・知覚的特徴と教育」『音声学会会報』205、1994、pp.34-62

谷口聡人「音声教育の現状と問題点」『シンポジウム日本語音声教育』凡人社、1991、pp.20-25

張若星「中国人日本語学習者が話す日本語と中国語のイントネーションの対比—フォーカス別によるピッチ曲線変動からの分析—」大阪大学大学院言語文化研究科修士論文、2002

陳妍如「台湾人学習者による日本語疑問文イントネーションの音響的分析」『第 16 回日本音声学会全国大会予稿集』、2002、pp.169-174

中東靖恵「中国人日本語学習者における撥音の音声実現—学習者音声の実態とその音声的バリエーション—」『言語文化と日本語教育』25、2003、pp.1-12

平野宏子「「総合日本語」の授業で行うゼロ初級からの音声教育の実践：アクセント、イントネーションの自然性を重視した視覚化補助教材の使用」『国立国語研究所論集』7、2014、pp.45-71

松崎寛「「音節」の概念を取り入れた音声教育の効果の検証」『平成 7 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』1995、pp.153-158

谷部弘子・西沼行博・林明子「中国人日本語学習者にみる発話末韻律の知覚—イントネーションとリズムの聴取実験—」『東京学芸大学紀要．総合教育科学系Ⅱ』61、2010、pp.279-288

山本富美子「中国人日本語学習者の有声・無声破裂音と聴解力の習得研究 —北方方言話者に対する聴取テストの結果より—」『日本語教育』104、2009、pp.60-68

楊暁安「意味の曖昧さを解消する場合に用いる韻律的手段 - 日本語と中国語の同異点について」『長崎外大論叢』17、2013、pp.129-137

楼晶晶「中国人日本語学習者の標準語アクセントと関西アクセント」『方言・音声研究』2、2009、pp.6-19

表２　全 52 問に対する中国人日本語学習者の回答及び統計の結果

項目	問題番号	テスト語・テスト文と回答選択肢	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12	正答者数	統計的有意性	単語親密度
なじみ度が高い語のアクセント	(1)	私：「ワ┐タシ・ワ「タシ	○	○	?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	*	6.000
	(2)	おかあさん：オ「カ┐ーサン・オ「カーサン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	6.500
	(3)	学校：ガッ「コー・「ガ┐ッコー	○	○	○	○	○	○	?	○	○	○	○	○	11	*	6.225
	(4)	毛布：「モーフ・「モ┐ーフ	×	?	?	○	×	×	×	?	×	?	×	×	1	(*)	6.000
	(5)	パソコン：「パ┐ソコン・パ「ソコン	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	*	6.425
	(6)	テレビ：「テ┐レビ・テ「レビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	6.350
	(7)	東京：「ト┐ーキョー・「トーキョー	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	?	10	*	6.025
	(8)	京都：「キョート・「キョ┐ート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	5.900
	(9)	日本：ニ「ホ┐ン・「ニ┐ホン	○	○	○	○	?	○	○	○	○	○	○	?	10	*	6.425
	(10)	アメリカ：「ア┐メリカ・ア「メリカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	6.525
	(11)	日本語：ニ「ホ┐ンゴ・ニ「ホンゴ	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	10	*	6.650
	(12)	図書館：ト「ショ┐カン・ト「ショカン	○	○	○	○	?	○	○	○	○	○	○	○	11	*	6.225
		正解率	92%	92%	58%	100%	75%	92%	83%	92%	83%	92%	92%	75%	85%		
4漢字の複合語のアクセント（1単位か2単位か）	(13)	京都大学：「キョ┐ートダ「イガク・「キョートダ┐イガク	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	?	10	*	
	(14)	試験開始：シ「ケ┐ンカ「イシ・シ「ケンカ┐イシ	×	×	?	×	×	×	○	×	×	×	×	?	1	(*)	
	(15)	日本料理：ニ「ホ┐ン「リョ┐ーリ・ニ「ホンリョ┐ーリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	?	11	*	
	(16)	中国南部：「チューゴクナ┐ンブ・「チュ┐ーゴク「ナ┐ンブ	○	×	×	×	?	×	○	○	○	×	×	?	4		
		正解率	75%	50%	50%	50%	50%	50%	100%	75%	50%	50%	50%	0%	54%		
動詞＋助動詞のアクセント	(17)	来るそうです：ク「ルソ┐ーデス・「ク┐ルソーデス	○	○	×	×	×	○	○	○	×	○	○	×	7		
	(18)	来ないのですか：「コ┐ナイノデスカ・コ「ナ┐イノデスカ	×	○	?	×	×	○	?	×	×	○	×	○	4		
	(19)	行くそうです：イ「クソ┐ーデス・「イ┐クソーデス	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	11	*	
	(20)	行かないのですか：イ「カ┐ナイノデスカ・イ「カナ┐イノデスカ	○	○	?	×	○	×	?	○	○	○	×	?	6		
		正解率	75%	100%	25%	25%	50%	75%	50%	50%	50%	100%	50%	50%	58%		
統語的あいまい文のイントネーション	(21)	春休みに読んだ本は全部返しました	○	×	?	×	×	×	?	?	○	×	×	○	3		
	(22)	けさ買ったばかりのかさをなくした	○	×	?	×	×	×	○	○	?	×	×	?	3		
	(23)	チーズケーキは売れてなかったんです	○	○	?	×	?	○	×	○	?	?	×	○	5		
	(24)	列に並んでもらいましょう	?	×	?	?	○	×	?	○	×	×	○	?	3		
		正解率	75%	25%	0%	0%	25%	25%	25%	75%	25%	0%	25%	50%	29%		
フォーカスの位置	(25)	コーヒーでゼリーを作った：コーヒーかゼリーか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(26)	豚肉で肉じゃがを作った：豚肉か肉じゃがか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(27)	青森でおみやげをもらった：青森かおみやげか	○	○	?	○	○	○	○	○	×	○	○	○	10	*	
	(28)	鹿児島でラーメンを食べた：鹿児島かラーメンか	○	○	○	?	○	○	○	○	○	×	○	○	10	*	
		正解率	100%	100%	75%	75%	100%	100%	100%	100%	75%	75%	100%	100%	92%		
裸の文末のイントネーション	(29)	わかってる（質問）：ワカッテ┐ル・ワカッテ/ル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(30)	なるほど（納得）：ナルホド┐ー・ナルホドー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	11	*	
	(31)	はやく（強く急かせている）：ハヤク→ー・ハヤ↘クー	○	○	○	○	×	○	○	○	?	○	○	○	10	*	
	(32)	わかってる（強調）：ワカッテ/ル・ワカッテ┐ル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	*	
		正解率	100%	100%	100%	100%	75%	100%	100%	100%	75%	100%	100%	75%	94%		

項目	問題番号	テスト語・テスト文と回答選択肢	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12	正答者数	統計的有意性	単語親密度
終助詞類のイントネーション	(33)	村山さんですか（理解）：ム「ラヤマサンデ」スカ・「ムラヤマサンデ」ス゛カー	○	○	○	○	○	O	○	○	?	○	○	?	10	*	
	(34)	確かにりっぱだね（関心）：リッ「パダ゛ネー・リッ「パダ゛ネー	○	×	○	○	○	O	○	○	×	○	○	○	10	*	
	(35)	もうタ方だよ（やさしく教示）：「ユーガタダ」ヨ・「ユーガタダ゛ヨー	○	○	?	×	○	O	○	○	○	○	○	?	9		
	(36)	まだタ方じゃない（今はまだタ方だ）：「ユーガタジャナ」イ・「ユーガタジャ」ナイ	○	○	?	?	?	O	○	○	○	○	○	○	9		
		正解率	100%	75%	50%	50%	75%	100%	100%	100%	50%	100%	100%	50%	79%		
母音の長短	(37)	それは角ですか？：カド・カード	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(38)	それはチーズですか：チズ・チーズ	○	○	○	○	○	O	○	×	○	○	○	○	11	*	
	(39)	佐藤さんですか：サト・サトー	○	○	○	○	○	O	○	○	×	○	○	○	11	*	
	(40)	斜めです：ナナメ・ナナメー	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×	9		
		正解率	100%	100%	100%	75%	100%	75%	100%	75%	75%	100%	100%	75%	90%		
促音	(41)	切ってください：キテ・キッテ	○	×	○	×	○	O	○	○	×	○	×	○	8		
	(42)	そこにいてください：イテ・イッテ	○	○	?	×	?	O	○	×	○	○	×	○	7		
	(43)	ピタリです：ピタリ・ピッタリ	○	○	×	○	○	O	○	×	×	○	×	?	7		
	(44)	括弧です：カコ・カッコ	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
		正解率	100%	75%	50%	50%	75%	100%	100%	50%	50%	100%	25%	75%	71%		
子音の清濁	(45)	金：キン・ギン	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(46)	井戸：イト・イド	○	×	×	○	○	O	○	×	×	○	○	×	7		
	(47)	電気：テンキ・デンキ	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(48)	あんた：アンタ・アンダ	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(49)	蛾：カ・ガ	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(50)	退学：タイガク・ダイガク	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
	(51)	綿：ワタ・ワダ	○	○	○	○	○	O	○	×	○	○	○	○	11	*	
	(52)	何で：ナンテ・ナンデ	○	○	○	○	○	O	○	○	○	○	○	○	12	*	
		正解率	100%	88%	88%	100%	100%	100%	100%	75%	88%	100%	100%	88%	94%		